

# News Letter

VOL.5

大阪市立大学

大阪教育大学

和歌山大学

積水ハウス株式会社



2019年度

## 女性研究者メンタリング交流会を開催しました!

2019年3月14日(木)、女性研究者メンタリング交流会を、大阪市立大学杉本キャンパス学術情報総合センター1階文化交流室にて開催いたしました。

講師：池上 知子(大阪市立大学 男女共同参画担当副学長、文学研究科 教授)

説明：西岡 英子(大阪市立大学 女性研究者支援室 プログラムディレクター・特任准教授)

ファシリテーター：小伊藤 亜希子(大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授、女性研究者支援室 女性研究者の上位職登用促進専門部会長)

第1部講演では、女性研究者のロールモデルとして池上副学長をお迎えし、女性のキャリアを阻む「ガラスの天井」を生み出すアンコンシャス・バイアスについて、先生のご専門の社会心理学の見地から様々なデータを用いながらご説明いただきました。ドクター・スミス問題、マチルダ効果、成功恐怖理論などが証明しているように、長年女性は社会と自身の心に存在するアンコンシャス・バイアスにさらされ続けてきました。先生が提示された数多くの知見は、女性に対してアンコンシャス・バイアスをかけるという長年の習慣を意識改革によって突然突破することは極めて困難であることを示しています。ここから先生は発想の転換で、アンコンシャス・バイアスは必ず私たちの行動に影響を及ぼすものであるということをも前提として、その影響を回避

するための環境を整備することが現状への打開策であると述べられました。続いて、西岡プログラムディレクターがメンタリングとは何かについて説明し、女性研究者メンタープログラムを紹介されました。

第2部交流会では、女性研究者同士で自身のワークライフバランスに関する課題・悩みなどを話し合うというグループメンタリングを体験していただきました。短い時間でしたが、女性研究者という共通項だけで話は大変盛り上がり、参加者にとって大変充実した時間となりました。



## 女性研究者メンタープログラムを開始しました!

女性研究者メンタープログラムは、連携機関<sup>※1</sup>に所属する女性研究者(メンティ)が、知識や経験の豊かな指導者・助言者(メンター)から、研究生活全般やキャリア形成などに関する支援・助言を受けることができる体制をつくることで、キャリア意識の醸成、研究力やリーダーシップの育成、ライフイベントとの両立に関わる問題解決のサポートを目的としています。様々な研究分野と多様な人材を有する連携機関が連携して、メンタープログラムを実施することにより、メンティとメンターのマッチングを推進し、女性研究者のネットワークの構築につなげます。

具体的には、研究の進め方、上司等との人間関係、キャリア形成、仕事と育児・介護の両立などの相談内容について、支援・助言を行います。また、ピアメンタリング<sup>※2</sup>の実施により、支援のネットワーク化を促進します。

※1 連携機関：大阪市立大学、大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社

※2 ピアメンタリング：ピア(peer)は「仲間」の意味。共通のテーマを持つ人が定期的集まり、「女性研究者メンタープログラム」互いの関心事や相談事を共有し、ともに考えることで相互成長を図ること。詳しくはHPをご覧ください。



### メンタープログラムの流れ

#### ① 利用申込

女性研究者支援室へ電話あるいはメールでお申し込み下さい。  
☎06-6605-3661 ✉f-soudan@ado.osaka-cu.ac.jp

#### ② マッチング

メンティの相談内容を元に、女性研究者支援室にてメンターとのマッチングを行います。

#### ③ メンタリング

面接・電話・メール等でメンタリングを行います。回数や頻度については、業務に支障がでない範囲内でメンター、メンティ間で相談して決定します。

#### ④ アンケート

終了後、制度改善のための事後アンケートにご協力下さい。

## Event Schedule

8月

21 WED・22 THU 大阪教育大学

### キッズサマーキャンパス2019

(連携機関教職員・学生のお子様対象の学童保育プログラム)

場 所：大阪教育大学柏原キャンパス内(集合場所：C棟会議室)

時 間：9:00~17:00(お預かりは8:15~17:45)

8・9月

8/21 THU・9/3 TUE 大阪市立大学・大阪教育大学・和歌山大学

### 研究力向上のための外部資金獲得セミナー

講師：中安 豪(ロバスト・ジャパン株式会社 代表取締役)

場 所：大阪市立大学 杉本キャンパス 理学部E棟2F 211号室(第10講義室)

大阪教育大学 事務局棟 小会議室(4F)、和歌山大学 産学連携イノベーションセンター 1F 多目的研究室

時 間：9:30~12:30

※同一内容を2回実施

※連携機関にはテレビ会議システムで同時配信

和歌山大学は8/22(木)・9/3(火)の両日、大阪教育大学は9/3(火)のみ

9月

24 TUE・25 WED 和歌山大学

### 女性研究者英語力向上のための英会話セミナー

場 所：和歌山大学 西3号館 経済学部本館棟5F(第3会議室)

時 間：10:00~15:00

9月

26 THU 積水ハウス株式会社

### 第3回女性研究者研究発表交流会

場 所：新梅田研修センター

時 間：13:30~16:30(受付13:00~)

女性研究者が集い、学び、情報交換をする研究発表交流会を開催します。日頃の研究成果発表の場とすると共に、研究者の生き方、家族のあり方などを考える交流会とします。

#### <トークセッション登壇者>

高津 玉枝(株式会社福市 代表取締役)、河崎 由美子(積水ハウス株式会社 住生活研究所 所長)

#### <研究発表者>

①王 飛雪(大阪市立大学 生活科学研究科 特任助教)、平岡 千穂(積水ハウス株式会社)

②青木 宏子(大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 美術教育講座 特任准教授)

③秋元 郁子(和歌山大学 システム工学部 准教授)



文部科学省科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現  
イニシアティブ(牽引型)



HP: <https://diversity-oows.jp>

#### 連携機関

代表機関 公立大学法人大阪 大阪市立大学

共同実施機関 国立大学法人 大阪教育大学

国立大学法人 和歌山大学

積水ハウス株式会社

#### ニュースレターに関するお問い合わせ



大阪市立大学女性研究者支援室

OCU Support Office for Female Researchers

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

Tel: 06-6605-3661

E-mail: [ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp](mailto:ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp)

HP: <http://www.wlb.osaka-cu.ac.jp/>

発行：2019年8月

## 和歌山大学ダイバーシティ研修

### 「なぜ、今、ジェンダー平等とダイバーシティが問われているのか？」



2019年2月22日(金)

講師：伊藤 公雄(京都産業大学現代社会学部 教授、大阪大学名誉教授、京都大学名誉教授)

日本のジェンダー状況の改善は、社会の存続にとっても、日本の学術の発展にとっても重要です。グローバルジェンダーギャップ110位の現状は看過できない状況にあり、今回は「ジェンダー平等」と「ダイバーシティ」をテーマに研修を行い、管理職はじめ多くの参加を得ました。講師の伊藤教授は、ポピュラーカルチャーを含む広義の文化現象やメディアの社会

学的研究、男性性を中心にしたジェンダー研究など、幅広い分野をご専門とされています。男女共同参画や女性の登用などを進めるときに、女性ばかりに注意が向けられることの危険性を指摘され、ジェンダーギャップの大きな日本だからこそ、男性が感じる「剥奪感」(deprivation)に目を向ける必要があると述べられました。





# 2019年度 連携型共同研究助成採択課題が 決定しました！

## 今年度は、24件の課題が採択されました！

大阪市立大学…19件 大阪教育大学…2件 和歌山大学…2件 積水ハウス株式会社…1件

### 連携型共同研究助成とは…

連携機関(大阪市立大学・大阪教育大学・和歌山大学・積水ハウス株式会社)に所属する女性研究者を研究代表者とし、2連携機関以上の研究者による共同研究に対して研究費の助成を行う事業です。

代表者(所属 職名)	研究課題	共同研究者(所属 職名)
<b>大阪市立大学</b> 吉田 朋子 複合先端研究機構 教授	銀ナノ粒子・銀ナノシェル物の物性評価と形成メカニズムの解明	矢嶋 摂子 和歌山大学 システム工学部 教授
杉田 菜穂 経済学研究科 准教授	ダイバーシティ研究環境実現に関する調査研究	富田 晃彦 和歌山大学 教育学部 教授 測上 ゆかり 大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 特任助教
岩崎 昌子 理学研究科 准教授	物理学実験への深層学習の適用研究 ：データ処理技術開発および教育教材開発	深澤 優子 大阪教育大学 教育学部 准教授 住浜 水季 岐阜大学 教育学部 准教授・大阪大学 核物理研究センター 特任准教授 谷口 七重 高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 助教
西垣 順子 大学教育研究センター 准教授	ジェンダー平等を基軸にした大学評価のあり方についての研究 ー学生・院生のキャリアデザイン支援を中心にー	飯吉 弘子 大阪市立大学 大学教育研究センター 教授 安達 智子 大阪教育大学 教育学部 准教授 山口 真紀 神戸学院大学 全学教育推進機構 講師 伊田 勝憲 立命館大学 教職研究科 教授
佐々木 洋子 大学教育研究センター 特任助教	「多様性」を複合的に理解するための領域協働型教育 ー大学におけるダイバーシティ教育の実践のためにー	西倉 実子 和歌山大学 教育学部 准教授 山口 真紀 神戸学院大学 全学教育推進機構 講師
足立 奈津子 理学研究科 准教授	赤褐色を呈するストロマトライト様構造の構築と海洋古環境の復元	廣木 義久 大阪教育大学 教育学部 教授
小関 珠音 都市経営研究科 准教授	工業地域の再生と「豊穡化の経済」 ー場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステムー	藤田 和史 和歌山大学 経済学部 准教授 見見 淳哉 大阪市立大学 経営学研究科 准教授
早見 直美 生活科学研究科 講師	都市部中学生の主体的な健康食習慣の習得を目指した 学校・家庭・地域連携型食育プログラムの実施と評価	福村 智恵 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 柴田 亜樹 大阪教育大学 教育学研究科 特任准教授
小伊藤 亜希子 生活科学研究科 教授	家族縮小時代がnLDK住宅に求めるもの ー子供独立後の高齢者世帯を対象にー	村田 順子 和歌山大学 教育学部 教授 宮崎 陽子 羽衣国際大学 人間生活学部 准教授 松尾 麻里子 阪急阪神不動産 住宅事業本部 住宅事業企画部
植松 千代美 理学研究科 准教授	ツバキ属植物の系統関係の再検討	岡崎 純子 大阪教育大学 教育学部 准教授
藤井 律子 複合先端研究機構 准教授	緑藻ミルの強光に対する光合成反応維持のための 馴化メカニズムの解明	荒木 良一 和歌山大学 教育学部 准教授 竹田 恵美 大阪府立大学 理学系研究科 准教授
沼田 里衣 都市研究プラザ テニュアトラック特任准教授	図形楽譜を用いたインクルーシブな音楽教育に関する研究	上野 智子 和歌山大学 教育学部 准教授 菅 道子 和歌山大学 教育学部 教授 山崎 由可里 和歌山大学 教育学部 教授
佐々木 八千代 看護学研究科 准教授	離島で生活する高齢者の認知機能、身体機能と生活状況との関連	白井 みどり 大阪市立大学 看護学研究科 教授 野田 さおり 大阪市立大学 看護学研究科 特任講師 北川 純子 大阪教育大学 教育学部 特任教授 柴田 亜樹 大阪教育大学 教育学研究科 特任准教授
小島 明子 生活科学研究科 准教授	食品の機能性に関する食育教材の構築 ー栄養学・食品科学・教育学関連分野の横断的連携ー	井奥 加奈 大阪教育大学 教育学部 教授 山本 奈美 和歌山大学 教育学部 教授 福田 ひとみ 帝塚山学院大学 人間科学部 教授 松村 羊子 畿央大学 健康科学部 准教授
鍋島 美奈子 工学研究科 准教授	高床式砂栽培農業施設を活用した都市農業が社会、経済、環境に 与える影響の分析 その3 持続可能性に関する評価指標の検討	佐久間 康富 和歌山大学 システム工学部 准教授 内田 佐和 東レ建設 トレファーム事業推進室 次長
菅原 真弓 文学研究科 教授	阪和地域の文化資源に関する学際的研究	中島 敦司 和歌山大学 システム工学部 教授 村田 隆志 大阪国際大学 国際教養学部 准教授
小池 志保子 生活科学研究科 准教授	大阪町家・長屋のサイトスペシフィックな利活用に関する研究 国際交流の場としての活用に着目して	小伊藤 亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授 福田 美穂 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授 確田 智子 大阪教育大学 教育学部 教授 西川 章江 大阪教育大学 教育学部 准教授
上田 由喜子 生活科学研究科 准教授	高校野球選手のパフォーマンスと身体組成、トレーニングおよび 栄養教育カリキュラムの研究	榎木 泰介 大阪教育大学 教育学部 准教授 小林 知未 帝塚山学院大学 人間科学部 講師 岡崎 和伸 大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター 教授
山口 悦子 医学研究科 准教授	メディア・コンテンツを応用した医療の教育ツールの 学習効果および評価指標に関する研究	丁子 かおる 和歌山大学 教育学部 准教授 掛屋 弘 大阪市立大学 医学研究科 教授 金子 幸弘 大阪市立大学 医学研究科 教授
<b>大阪教育大学</b> 青木 宏子 教育学部 特任准教授	「美の力、芸術力によって、人を元気にする」 実践と研究一鑑賞における技能とはー	渡邊 美香 大阪教育大学 教員養成課程 准教授 高橋 暁生 積水ハウス CSR部 総合幸二 天空美術館 研究員
岡崎 純子 教育学部 准教授	遺伝的に異なるキョウ科ツリガネニンジン類の 2変種の実態と種分化過程の解明	名波 哲 大阪市立大学 理学研究科 准教授
<b>和歌山大学</b> 秋元 郁子 システム工学部 准教授	先端ESR装置を活用した光キャリアおよび光誘起スピンの研究	松岡 秀人 大阪市立大学 理学研究科 特任准教授
吉田 道代 観光学部 教授	日本における地方自治体による 同性愛者のパートナーシップ制度の導入と社会的影響	新ヶ江 章友 大阪市立大学 人権問題研究センター 准教授
<b>積水ハウス株式会社</b> 河崎 由美子 住生活研究所 所長	多世帯居住に関する研究開発	王 飛雪 大阪市立大学 生活科学研究科 特任助教 小伊藤 亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授

## 01 大阪市立大学

### 女性研究者短期留学報告会

2019年 6月7日(金)

女性研究者の国際的リーダー育成と大阪市立大学の研究・教育等の機能強化を目的とした『ふるさと寄附金を財源とした「グローバル人材育成事業(女性研究者支援)」女性研究者短期留学助成金』を受け、平成30年度に短期留学した女性研究者3名に、留学の成果をご報告いただきました。3名の先生方も生き生きと楽しそうに海外の受入先大学でのご経験をお話しされ、ご自身の研究や、研究に関わる人的ネットワークの構築など、大変充実した毎日を過ごされたことが伝わってきました。参加者からは、「もっと聞きたい」「機会があれば自分も応募したい」などの声が聞かれました。



#### 報告者1

「ドイツ・フランスでの『開リーマン面のモジュライを用いた多変数関数論』の情報発信」  
【2018年9月ストラスブール大学(フランス)、オーバーヴォルファッハ数学研究所(ドイツ)に約3週間滞在】  
濱野 佐知子(大阪市立大学大学院 理学研究科 准教授)

#### 報告者2

「コアラのしっぽに魅せられてーしっぽで繋げた人と謎ー」  
【2018年8月アデレード大学(オーストラリア)に約1か月間滞在】  
東島 沙弥佳(大阪市立大学大学院 医学研究科 助教)

#### 報告者3

「メキシコの研究者と交流して見たこと」  
【2018年9月メキシコ国立自治大学(メキシコ)に約3週間滞在】  
齋藤 直子(大阪市立大学 人権問題研究センター 特任准教授)

## 02 和歌山大学

### 和歌山大学 英語セミナー「英語スキル開発プログラム」

講師：Gabaマンツーマン英会話講師

2019年 2月14日(木)・15日(金)

プレゼンテーション、ソーシャライズ、ディベートをテーマに、5名のクラスで少人数参加型のセミナーを行いました。講義だけでなく、実践演習をおり交ぜ、研究や日々の活動に役立つ英語スキルを習得する機会となりました。プレゼンテーションやディベートでは、積極的な議論が展開され、講師も参加者のスキル習得に留意した対応でした。ソーシャライズは海外の会議や学会で日本人研究者が不得意な場面ですが、今回の研修内容に組み込んでいただき、好評でした。今後もこの取り組みを続けてほしいとの参加者の声が上がっています。



### 和歌山大学図書館にて 「英語論文の書き方」セミナーを開催しました

講師：小野 義正(理化学研究所創発物性科学研究センター)

2019年 6月27日(木)・28日(金)

理化学研究所創発物性科学研究センター・小野義正先生を迎えて、ダイバーシティ研修「英語論文の書き方」【基礎編】【応用編】を開催しました。英語の発想法や作文技術から、英語論文の構成や査読者対策まで、豊富な具体例を交え実践的な内容でお話しいただき、大変有意義な研修となりました。



## 03 大阪教育大学

### 保育サポーター養成研修講演会を開催しました！

第2回 2019年 2月20日(水)

#### 「学校をプラットフォームにした 子どもの貧困対策 現状と課題」

講師：小川 光治(公益財団法人あすのば 代表理事)

実際に貧困の中にいる子どもたちや保護者が孤立し、助けを求められないと感じていることが、支援の困難さを増していることを、実体験も交えて語られました。また、公益財団法人あすのばで行っている様々な効果的な施策が紹介され、参加者からは、教育と福祉の連携の必要性がよく理解できたとの感想が寄せられました。



第3回 2019年 2月28日(木)

#### 「SOGI(性的指向・性別自認)の多様性と大学 ～何をどのように取り組むべきか～」

講師：東 優子(大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科 教授)  
榎井 克明(大阪府立大学 学生センター学生課長)

東教授は、SOGIについて、日本のマスコミでの取り上げられ方など身近なことから、海外での動向まで幅広く語られ、共生を目指すためには包摂されているかどうかことが重要であることを学びました。榎井学生課長は、大阪府立大学での先進的な取り組みが始まった契機や、施策の具体化には学生の協力を得ながら進めていったこと等についてご教示くださいました。



第4回 2019年 3月4日(月)

#### 「一人ひとりが生きる保育をめざして あーよかったな 先生になって～やさしさという温かい貯金～」

講師：仲島 正教(教育サポーター)

小学校教師を21年間勤め、教育委員会が人権教育に携わった経験を踏まえて非常に具体的な内容が披露され、講師の温かなお人柄がふれる楽しい講演会となりました。参加者からは、「子どもたちの良いところ、素敵などところを見つけてほめたい」、「人を育てる管理職も聴いたらいいのではないかな」などの感想が寄せられました。



### 英語プレゼンテーションセミナー

講師：カレン・ウエダ(ベルリッツ・ジャパン株式会社)

2019年 3月6日(水)・7日(木)

プレゼンの効果的な始め方、構成と展開、印象に残るまとめ方、心をつかむ話し方、質疑応答への対処の仕方など、高度なスキルの演習が行われました。各単元の説明後に実践練習を挟むことにより、確実にスキルが身に付き、少人数で密度の高いセミナーとなったため、参加者の満足度は非常に高いものとなりました。



### 男女共同参画セミナー 「リーダー育成のためのメンタリング ～ダイバーシティ促進の仕組みづくり～」

講師：西岡 英里(大阪市立大学女性研究者支援室 特任准教授・プログラムディレクター)

2019年 6月26日(水)

諸外国と日本との女性研究者比率や女性活躍推進の取り組みの比較についての紹介や、子育て・介護時も研究を継続し、適正に評価するための女性研究者支援、リーダー育成・ダイバーシティ促進の方法としてのメンタリングの重要性について紹介されました。また、4～5名ずつのグループに分かれ、多様性社会のリーダーに必要な適性や、最近の課題・キャリア等について、ディスカッションを行いました。参加者にとっても有意義な時間となりました。





Interview  
01

## 働く女性や家族の課題解決につながる研究を

大阪市立大学 大学院  
生活科学部・生活科学研究科 教授

こいとう あきこ  
小伊藤 亜希子さん

Profile

1963年生まれ。京都大学大学院 工学研究科で学術博士（工学）を取得。京都造形芸術大学、京都文教短期大学、日本福祉大学講師を経て、1999年大阪市立大学へ助教として着任。京都の町家、大阪の長屋等の伝統的住宅での家族の住み方と住要求、子どもの放課後の居場所づくりなど、自身の子育てや生活経験を活かした住居学の研究を行う。



### 子育てと研究を両立できる環境を求めて転職

私は博士課程の2年生の頃、結婚しました。博士課程修了後、任期付き助手として京都造形芸術大学へ着任した2年目に妊娠がわかり、約4カ月の産休を取得してすぐに復帰。子育て中は研究する時間が限定されるので、精神的にも実質的にも大変でした。私の母は働いていたこともあり、どうしても遅くなる日は保育園のママ友に子どもを預かってもらうことも。当時、夫とは「私ばかり家事の負担が多く不公平だ」とよくケンカをしましたが、今では夫や子どもが皿洗いや洗濯などの家事を手伝ってくれています。

出産から2年後、京都文教短期大学に3年の任期付き講師として着任。任期付きなので、講師の仕事と研究と同時に、次の就職先も探さなければいけません。短期で転職を繰り返している間は、「赴任してすぐに産休をとるのは申し訳ない」とか、「大きいお腹で面接するわけにはいかない」と思い、二人目を作る決心がなかなかつきませんでした。

正規の採用が決まった日本福祉大学は、京都の自宅から通うことは困難なため単身赴任をすることになりました。女性研究者が研究する場を



得るにはどこへでも行く覚悟がないと就職は難しいと実感しました。覚悟の上で赴任したものの、当時2才だった長男に毎週別れ際に大泣きされて、不安定になっていく姿を見るとさすがにかわいそうでした。そんなとき、大阪市立大学の公募があり、1999年に採用され着任しました。

京都から2時間の通勤ですが、やっと家族で暮らせるようになり、安定したポストを得たので2人目を妊娠しました。現在息子たちは大学院生と大学生。母の帰りが遅く、お腹が空いたら自分でなんとかせざるをえない環境で育ったからか、長男は料理が上手です。ようやく子育ての山は越え、遠方への出張も可能になったので研究の幅も広がりました。



### 働く女性や家族の課題を解決する住み方を調査研究

住居学の研究は生活空間を作る仕事なので、自分の生活体験を活かすことができます。私は子どもが生まれた頃、町家の研究等と平行して「乳幼児がいる住まいの研究」に取り組みました。子どもが小学生になった頃には「子どもの放課後の居場所づくり研究」や「住宅内の女性の専用スペース調査」を開始するなど、自分の生活体験から生まれた課題が研究テーマや調査につながっています。現在、大阪市立大学と積水ハウスとの共同研究プロジェクトで、両者の女性研究者によるウィメンズユニットをつくって「多世帯住居に関する研究開発」を行っています。今後も多くの女性や家族の課題を解決できる研究に取り組み、成果を出していきたいと思っています。

Message for Female Researchers

### 安心して研究できる環境を目指して発信と行動を

女性研究者の悩みはキャリア形成の時期とライフイベントが重なってしまうことです。そんな時でも、コツコツと目の前のことを積み重ねて継続すると、少しずつでも成果が出ます。私が妊娠した頃は、研究者が産休を取得することはかなり珍しかったようですが、現在は女性研究者も増えてきて、次々と産休・育休を取得するようになりました。最近は男性研究者も「今日はお迎えがあるので先にお先に失礼します」と言われる方もいます。人数が増えると「みんなが通る道」になるので、それぞれが発信し、行動することが重要ではないでしょうか。

Interview  
02

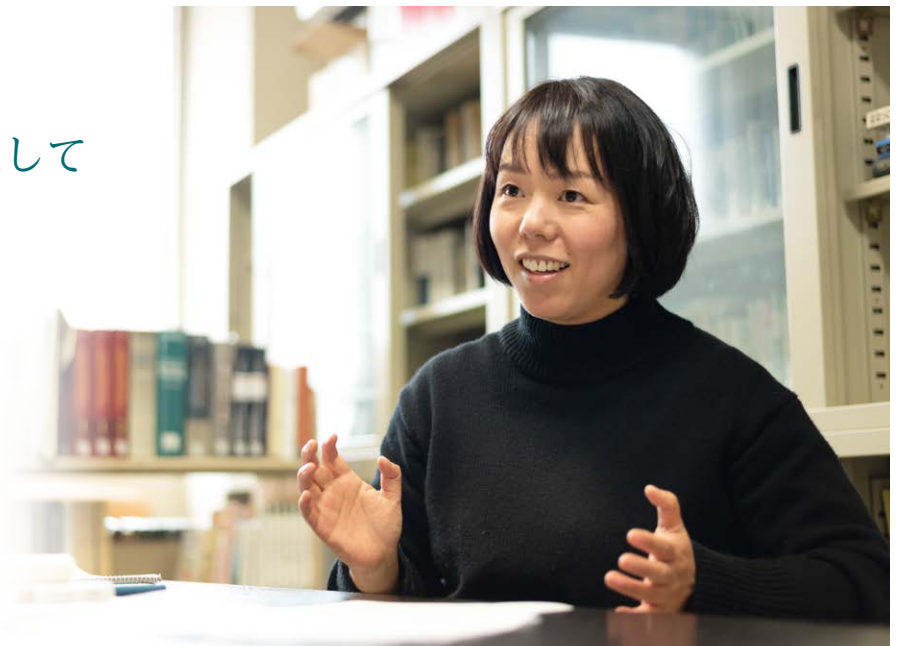
## 長期的なロールモデルとして道を拓きたい

大阪教育大学  
教育学部 教員養成課程 学校教育講座 准教授

はった さちえ  
八田 幸恵さん

Profile

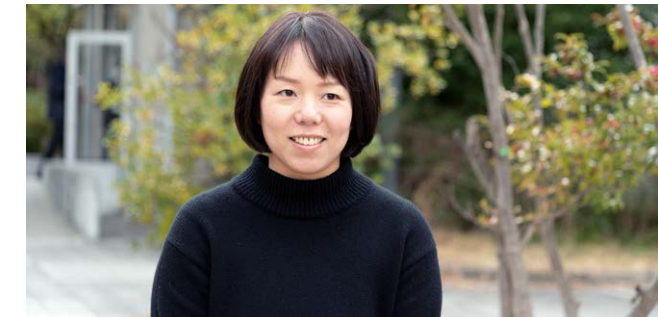
1980年生まれ。京都大学大学院教育学研究科で博士（教育学）学位取得。2008年福井大学へ講師として着任。高等学校の教育現場に密着して、教科や「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発の実際を研究。「総合的な学習の時間」では、研究者として生徒への助言や教員の指導助言なども行う。2013年大阪教育大学へ准教授として着任後、現在子育てとの両立を模索しながら研究活動に取り組む。



### 教育学研究とライフプランとの葛藤

もともと本を読むのが好きで、高校の国語教師を目指して京都大学の教育学部へ進学。学部の授業で学校教育の内容そのものが研究対象になっていることが興味深く、ゼミで卒論を書き始めた頃には、もっと追究したいという気持ちになりました。教育実習を受けて採用試験の準備もしていたのですが、「やっぱり研究の道へ進もう」と決意しました。指導教員には「就職が決まるまでがとて長く、私生活も計画的に進められないよ」と心配していただいたのですが、その時は、もし就職先がなかったらしばらくゆっくりしてもいいと思っていました。

私の場合は幸運なことに、博士後期の3年目に福井大学に採用が決まり、次年度に着任しました。3年目の頃に結婚したのですが、夫は当時福岡勤務のため遠距離で別居婚。その翌年に夫が大阪に転勤になり、同居できる道を模索しました。そんな時に大阪教育大学の公募に応募し、准教授として採用が決まりました。ですがその直後に妊娠がわかり、4月に着任してそのまま産休に入ることになって。本来なら4月からフルで働く事を期待されているし、いろんな先生にご迷惑をおかけすることになり、



ものすごく申し訳ない気持ちでした。教育大学や教育学部は、教員免許状の関係もあって全く同じ分野の教員が複数名いることはなく、休業中の教員の仕事を残ったメンバーでカバーすることができないので、それまでのネットワークで信頼できる方に非常勤の講師を依頼しました。4カ月後、私が復帰して同時に夫が育休を半年間取得。翌年の4月から子どもは保育園に入園しましたが、半年もの育休から復帰した夫の育児負担を減らさなければという思い込みによって家事育児を抱え込んでしまい、メンタルはすごくしんどかったです。3年後に2人目を出産した時は産休・育休を1年間取得でき、家事・育児の分担もうまくいくようになりました。



### 子育て中にできる研究テーマに工夫

子育て中の研究は、学校現場に通うことや海外に行くことは難しいので、今までの問題意識の延長線で、文献や資料を調査する方法で新しい知見を導き出せるテーマに工夫しました。授業の時間割はある程度自分で組めるので、午前中に授業を入れて夕方保育園のお迎えに間に合うようにするなど時間のやりくりをしても、授業や学生指導と研究活動をこなすことに精一杯です。今、私のようにアラフォー世代の女性研究者の悩みは、学会や研究会に行けないこと。教育学系の学会は必ず土日に全国各地で行われますが、子どもが幼いのに遠方の学会へはなかなか行けません。他分野では保育付きの学会があるらしいので、教育学でも保育付きの学会や子ども連れでも学会発表ができるようになるのではないかと思います。

Message for Female Researchers

### 先輩方へ感謝して希望をもって研究を

私が大学院生の頃、研究室代表として学会で発表した時に、来られていた60代の女性研究者の方が「女性が研究室代表として発表できる時代になったのか」と感極まっておられました。私は女性だから発表できないと考えたこともなく、それはこうした先輩方が研究者として立派にやってこられたおかげなのだと思えました。現在、教育学において50代以上の女性研究者の方は少なく、私自身の長期的なロールモデルとして考えられる方が見当たらない状態なので、今のアラフォー世代の女性研究者がロールモデルを作っていければと思っています。



Interview  
03

## 多様な文化や価値観にふれる 大切さを伝えたい

和歌山大学  
システム工学部 環境デザインメジャー  
システム工学部副学部長 教授  
みやがわ ともこ  
宮川 智子さん

Profile  
英国ニューカッスル大学でアーバンデザインを学び、奈良女子大学大学院 住居学都市計画研究科で学術博士を取得。工場跡地等の低・未利用地の再生プロセスについて海外の法制度や事例の調査・研究を行う。平安女学院大学での講師を経て、2005年より和歌山大学に着任。和歌山県を中心とした街並の調査研究等のほか、理工系女子学生支援にも取り組む。



### 留学経験を活かし国内外の事例を研究

奈良県出身の私は、子どもの頃から奈良公園や古都の街並が好きでした。両親がホストファミリーをしていたので英語にも興味があり、高校で1年間米国へ留学。その時に日本の歴史的な建築は木造に対して欧米はレンガや石造りで、同じ自然環境と人間なのに、なぜこんなに街並が違うのか本当に不思議に思っていました。歴史の長いヨーロッパで何百年も残り続ける石造りの建築物や街並はどのようにできたのか大学で学びたくなり、都市計画が有名な英国のニューカッスル大学へ進学しました。大学では都市計画の各分野の先生方がすごく楽しそうに研究されていることが印象的で、研究者という職業を初めて意識するように。そして、卒論で手がけた日本と英国の都市計画の違いに関する研究に熱中し、研究者を目指すことに。帰国後、奈良女子大学の大学院に進学し、「工場跡地などの低・未利用地の再生プロセス」をテーマに、オランダ、ドイツ、米国、英国の法制度と事例研究を始めました。

博士課程後期修了後は、平安女学院大学に新設される生活環境学部



生活環境学科の公募に採用され、講師として着任。新設された学部の一期生は意欲にあふれていて、関西エリアの建築・都市計画の研究者が訪れる授業発表会の際に、積極的に学生も参加してくれました。私自身も講師として一緒に成長していったのではないかと思います。また、同大学で都市計画の大先輩である室崎生子教授の研究への姿勢から研究者として人と話すことの大切さや仕事の進め方を学びました。

その後、和歌山大学での公募に応募し、着任。和歌山大学の高砂正弘教授と九度山町教育委員会と「九度山町文化遺産を活かした地域活性化事業」の共同研究を行い、その集大成を2018年2月に文化庁へ提出しました。これから地域住民の方々や行政にアウトプットしていこうと思っています。



### システム工学部の女子学生支援に携わる

和歌山大学システム工学部では「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の取り組みとして、2018年10月に「先輩女子院生に聞くシス工女子と研究」というランチタイムセミナー&交流会を開催。各メジャー(専門領域)の研究科へ進学した女子大学院生から、それぞれの研究のおもしろさについて直接聞ける機会を設けました。和やかな雰囲気の中で研究や進路のことなどを聞いていたので、良い機会になったのではないかと思います。グローバル化が進む時代に社会へ出て行く学生にとって、学生時代から多様性のある人と関わりをもち、様々な価値観があることを知っておけば、社会に変化が起こっても戸惑わずにすむのではないかと思います。

Message for Female Researchers

### 多様な考え方にふれて様々な可能性を見つけたい

様々な考え方や道を考えておくことはキャリア形成にとって大切なことだと思います。また、女性や外国人など様々なタイプの研究者の方との出会いが私の研究者としての基礎を築いたと思います。研究に煮詰まった時は「あの先生ならどう進めるだろう」と考えることで糸口を見つけることも。大学運営や学会、研究会等で出会う多様な価値観をもつ研究者の方々と交流を通じて、新たなテーマのヒントに出会うこともあります。若手の頃から女性研究者や外国人研究者と出会う機会があれば、ぜひ積極的に参加していただければと思います。

Interview  
04

## 幸福感を追求する 住まいの研究を極めたい

積水ハウス株式会社  
住生活研究所 所長 一級建築士  
かわさき ゆみこ  
河崎 由美子さん

Profile  
1964年生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業後、1987年積水ハウスへ入社。住宅の採光技術、照明心理・色彩心理を研究する住生活研究、視環境研究を担当。キッズ、収納、食空間、睡眠、ペット、ユニバーサルデザインなど暮らしにこだわり、生活に密着した分野の研究開発も手がける。2018年、「幸せ住まい」を研究する住生活研究所所長に就任。



### 豊富なライフスタイル経験を活かして住まいを研究

父の仕事の関係で幼少の頃に様々な国で育ち、多種多様なライフスタイルを経験。国や環境によって変化する、暮らし方、住宅の間取りについて考えるのが好きでした。その後、日本の高校へ進学し、「住宅を作りたい」と大学で建築学を学びました。

積水ハウス入社後は研究部門に配属。採光や照明、色彩の心理的な効果を研究する「視環境」を担当。当時は「総合住宅研究所」の建設計画が進行中で、入社1年目から「人工天空システム」で実験する設備の企画・設計にも携わりました。

結婚して5年後に出産したのですが、1年間の育児休暇後は住生活研究とキッズデザインなど「暮らし提案商品」の研究開発を手がけました。育児中の経験や、家族や暮らしについての研究成果を実際に商品開発へ活かし、窓の開発や子育てのために一段床を低くした『ピットリビング』を開発しました。

住生活研究は社会情勢を読み解き、人々の暮らしがどのように移り変わるかの長期予測を1年に1回レポートにまとめます。商品化につながる



と確信した後、調査データを元に社内の営業や設計士と話し合い商品化します。これまでペット、子育て、収納、食をテーマにした生活ソフト商品を開発してきました。

2018年、当社は住生活研究所を設立し、家族のために幸せ住まい『ファミリースイート』を発表しました。ファミリースイートはリビングの柱をなくすことで十分な広さを実現。家族が思い思いに過ごすことができ、ライフステージに合わせて部屋を自由に使えるリビングです。今後も住生活研究所では「健康」「家族のつながり」などの「幸福感」を追求するテーマに取り組み、ビジョンである「住めば住むほど幸せ住まい」のノウハウを科学的・理論的に明らかにすることで、住む方が幸せに気づき、実感できる「幸せ住まい」を提案していきます。



### 女性研究者のリーダー育成を目指した共同研究

2017年4月より大阪市立大学と女性研究者のリーダー育成を目指した「産学官連携ウィメンズユニット(WUSO)」による共同研究プロジェクトがスタート。テーマは団塊の世代が後期高齢者(75才以上)になり、介護や医療費など福祉の需要が急増する「2025年問題」を解決するために、地域のひとと家族を支える仕組み・家・考え方が大切になると提唱し、大家族でつながって暮らすことに注目した「多世帯同居に関する研究開発」を生活科学研究科の先生方と行っています。大阪市立大学から女性研究者を受け入れて共同研究を進めているのですが、大学の先生と若手研究職の社員たちが互いに刺激を受けながら成長してほしいと思います。

Message for Female Researchers

### 社会の流れや、運を掴み、学び、何事にも挑戦してほしい

自分が携わりたい仕事や、志望する研究があったとしてもやりたいからできるわけではなく、社会の流れや運があると思います。自分の前に流れてきたことに興味がないからと素通りするのではなく、何事にも興味を持ち、好奇心を絶やさず、学び挑戦してほしい。また、研究は様々な事象を正確に捉えることが重要なので、分析力を若いうちにしっかりと身につけておけば、どんなテーマや課題に対しても答えや出口を見つけられると思います。